

令和5年度社会教育委員会議 議論の記録手交式 概要録

1 議事

(1) 記録の手交

(2) 懇談

2 日時

令和6年(2024年)3月28日(木) 14時00分～14時15分

3 場所

札幌市教育委員会5階 教育長室

4 出席者

(1) 委員(1名)

出口議長

(2) 事務局(6名)

檜田教育長、竹村教育次長、木村生涯学習部長、大瀬生涯学習推進課長、
田村野外教育担当係長、国奥職員

5 開催形態

公開(マスコミ関係者2名傍聴:北海道通信社2名)

6 主な内容

(1) 議論の記録手交

出口議長から、檜田教育長へ議論の記録「札幌市社会教育委員会議議論の記録
(令和5年度)」の手交を行った。



(2) 懇談

① 出口議長からご発言

今年度の会議では、「子どもの体験活動の推進」をテーマに協議を行った。コロナもあって子どもたちの体験活動が中々行われていないという現状があるが、子どもたちだけでは中々体験活動を行う発想に至らないことも多いことから、大人（親も含め）がそういった機会を作らなければ子どもたちには繋がっていかないように思う。そのため、大人にも体験活動の質や効果などをしっかり知ってもらったうえで、子どもたちを外に連れ出してもらうことが大切であると考えている。その上で、本物を見ることの感動を子どもたちにも是非感じていただきたいということも記録に盛り込ませていただいたので、これを踏まえて今後札幌市の子どもの体験活動がさらに広がっていけばと思う。

また、実際の会議においては、これまで行ってきた口の字型の会議では中々意見が出にくかったということ踏まえ、教育委員会内の他の会議でも実施した「熟議（少人数のグループワーク形式）」を取り入れさせていただいた。少数グループでの議論になると各委員からも様々な意見が活発に出され、満足感も非常に高かったようだ。

② 檜田教育長から議論の記録に対する謝辞

出口議長をはじめ委員の皆さまにおかれましては、全4回にわたる会議を重ねていただき、また、協議にあたっては「熟議」により活発に議論いただき、それぞれの専門的な知識やご経験から、大変貴重なご意見を賜り、心よりお礼申し上げます。今回、体験活動について議論いただいたが、先ほど出口議長からも話があったように、コロナが明けて子どもたちに本物の体験（自然体験や文化・芸術体験、その他の社会的な様々な活動）をどのようにさせていくかということがとても大切だと思う。札幌でもコミュニティスクールを導入していく中で、地域全体で子どもたちの体験活動を考えていくといったことも委員の皆様にご議論いただいたのは我々にとっても大変ありがたいことであり、子どもを通して大人たちも繋がっていくということが、これからの札幌にとって必要な部分と思っている。今回いただいた記録をしっかり受け止めながら今後も取り組んで参りたい。